

(仮称)町田市里山環境活用保全計画  
(素案)

町田市

# 目次

第1章 計画の策定にあたって.....	1
1. 計画策定の目的.....	1
2. 計画期間.....	2
3. 計画の位置付け.....	2
4. まちだの里山の定義.....	3
5. 計画策定の背景.....	7
第2章 町田市の里山の現状と課題.....	11
1. 町田市全体の里山の現状.....	11
2. 住民・来訪者の意識.....	13
(1)地域住民のニーズに関する調査.....	13
(2)来訪者のニーズに関する調査.....	14
(3)地域住民の暮らしに関するヒアリング調査.....	15
3. 町田市の里山の課題.....	16
4. エリアごとの里山の現状と課題.....	16
【小山田エリア】.....	17
【小野路エリア】.....	19
【相原エリア】.....	21
【三輪エリア】.....	23
第3章 里山環境の再生・保全に向けた基本方針.....	25
1. 基本的な考え方.....	25
2. 基本方針.....	27

第4章 里山環境の再生・保全に向けた具体的な取組 .....	29
1. 町田市全体の取組 .....	29
2. エリアごとの取組 .....	30
【小山田エリア】 .....	30
【小野路エリア】 .....	31
【相原エリア】 .....	32
【三輪エリア】 .....	33
第5章 計画の推進にあたって .....	35
1. 推進体制 .....	35
2. 進行管理 .....	36
資料編 .....	37
1. 航空写真等 .....	37
2. 活用を検討する制度 .....	38

# 第1章 計画の策定にあたって

---

## 1. 計画策定の目的

町田市には、市街地に間近な丘陵地に、都内でも有数の自然環境の豊かな谷戸があります。そうした地域は恵まれた自然環境であるとともに、多様な生物の重要な生息・繁殖環境にもなっています。また、減少しつつあるものの今でも農の環境が残っておりされており、数多くの歴史・文化の足跡も見ることができます。こうした立地・緑・水・農・歴史・文化、これらすべては町田市の魅力の一つであり価値ある資産・資源であるといえます。

これまでは、「町田市北部丘陵活性化計画（基本計画・実施計画）」及び「町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン（行動計画）」に基づき、北部丘陵地域に特化した里山環境の再生・保全を推進してきました。

こうした中、多摩都市モノレールや小田急多摩線の延伸、SDGsへの対応や新型コロナウイルス感染症拡大をはじめとする社会環境の変化を受け、良好な里山環境を町田市の貴重な資産として活かしていくことが求められています。

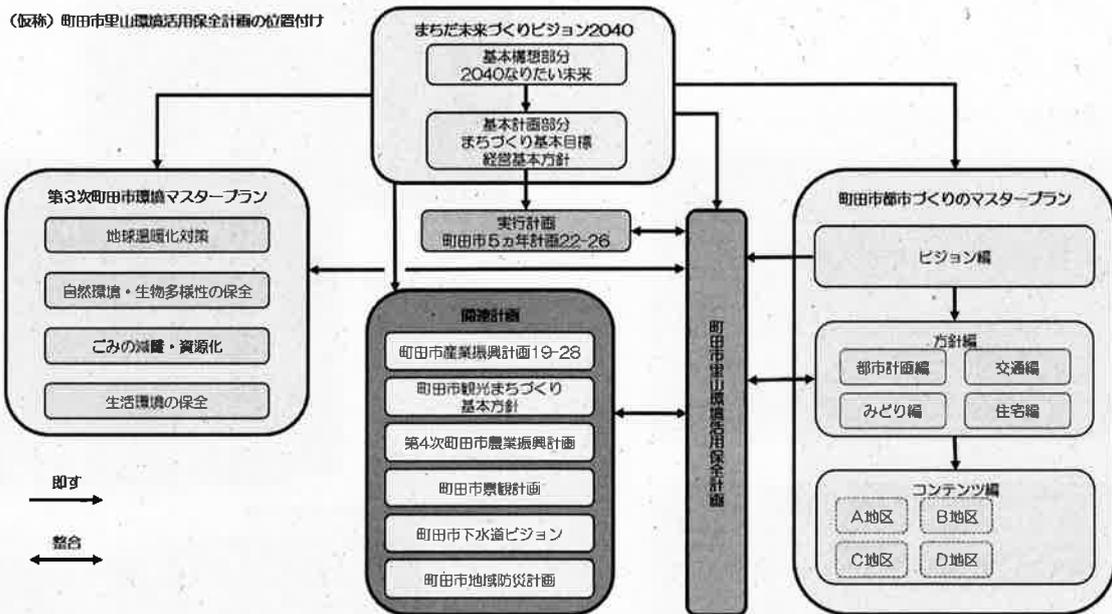
本計画では、こうした地域の資産・資源を再生・保全するとともに、有効に活用することで地域活性化や本市におけるSDGsの推進、持続可能な循環型社会の実現を目指していくこととします。施策を効果的に推進していくために、将来像を示すとともに、施策の対象となるエリアを設定し、それぞれ異なる地域の特徴をとらえ、実情に応じた施策をリーディングプロジェクトとして設定します。

多様な主体による連携・協働により町田市の里山環境を再生・保全・活用していくことで、「住む人も訪れる人も居心地のよい まちだの里山」を実現していくための計画として策定しました。

## 2. 計画期間

計画の期間は2022年4月～2032年3月（10年間）とします。

## 3. 計画の位置付け

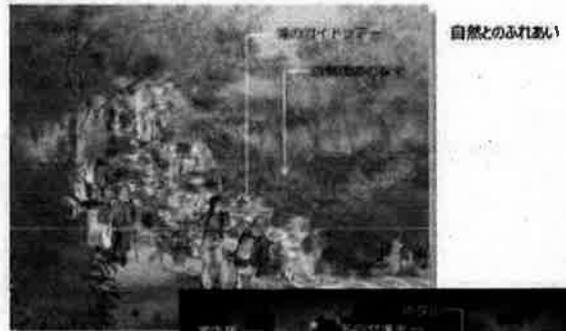


## 4. 町田市の里山の定義

### (1) 里山とは

谷戸や山林に隣接する集落で生活する住民が、自ら田畑を耕作し、農閑期においては薪や炭にする目的で樹木の伐採を行い、雑木林の管理がなされている地域を指します。人の手が適度に入ること生き物の多様性、良好な景観、伝統文化等が保全・継承され、人と自然が共生し、資源が循環すること等により、持続可能な環境が形成されてきた場所です。

### 【参考】将来の里山のイメージ



観光地の水辺利用

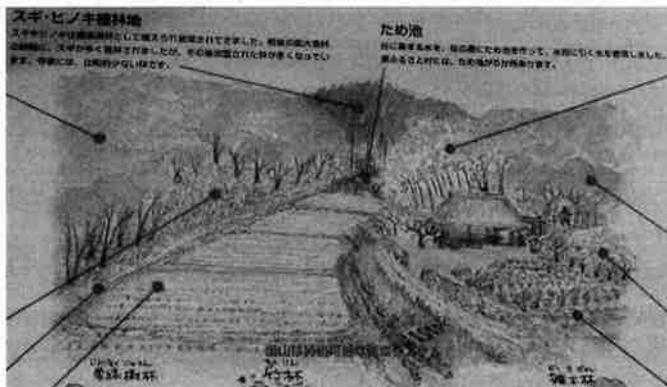
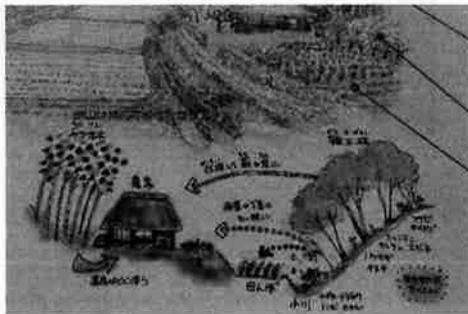
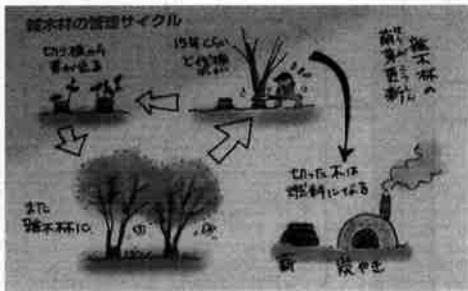


水辺の多自然化と農産体験等の活動



出典：「水辺ふれあい構想」(厚木市)

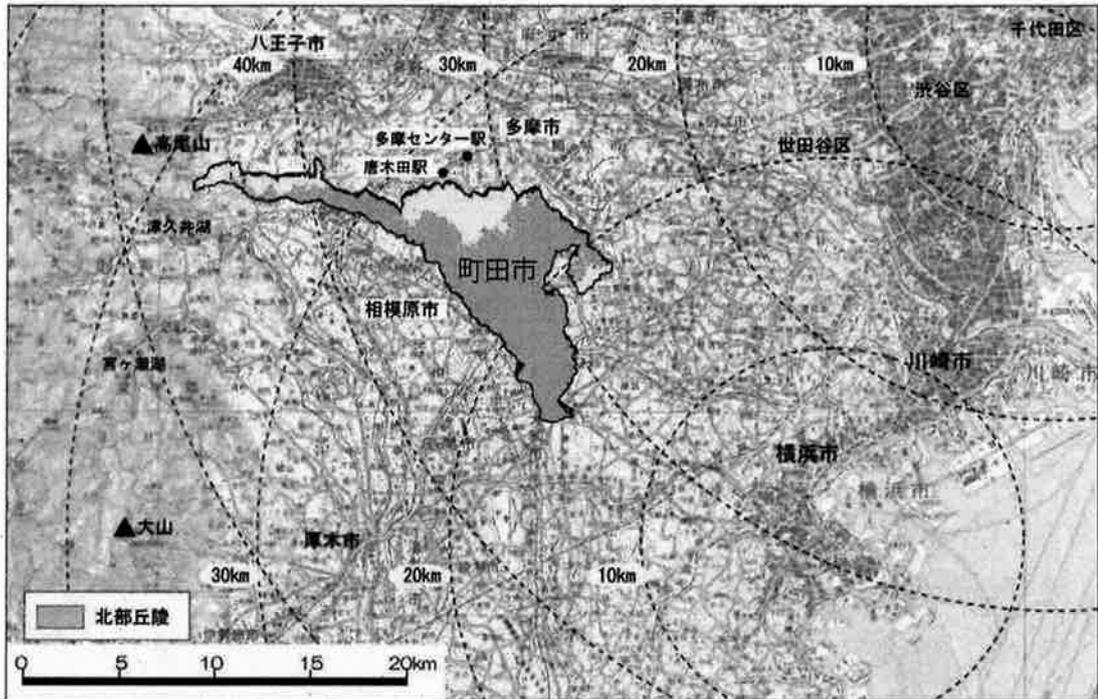
### 【参考】かつての里山のイメージ



出典：寺家ふるさと村：横浜市

## (2)位置(町田市の里山の位置:黄色塗)

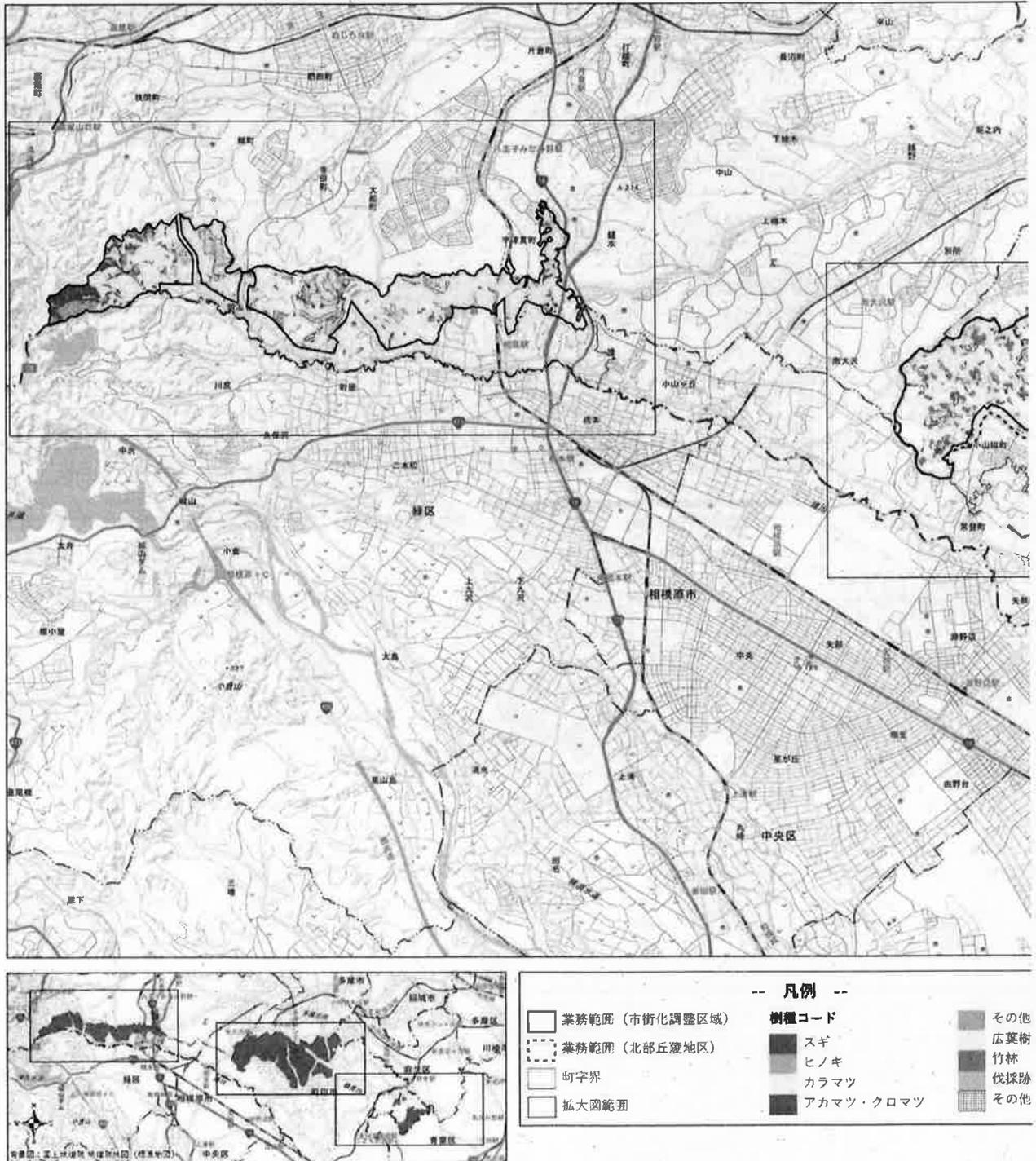
本計画の対象区域となる町田市の里山は、東京都心から直線距離でおよそ 30~40km、横浜の中心部から直線距離でおよそ 20~40km の位置にあります。町田市の北部にあり、町丁目では、相原町、上小山田町、下小山田町、小野路町、図師町、野津田町、三輪町の市街化調整区域とそれに隣接する市街化区域の一部に該当します。

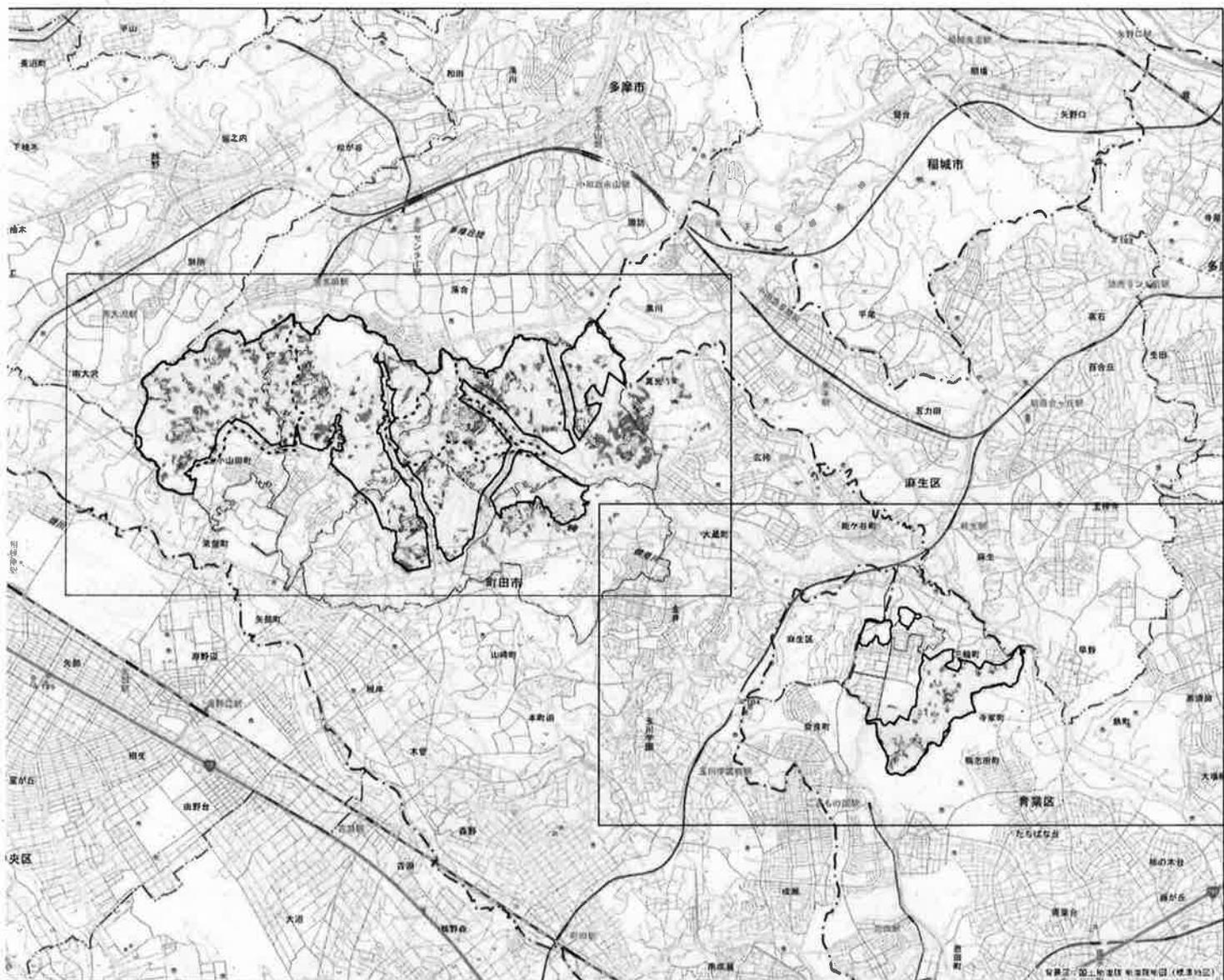


出典:町田市北部丘陵活性化計画

### (3)対象地の林相区分図

本計画の対象区域となる町田市の里山の林相区分図は以下のとおりとなります。





**凡例**

樹種コード	
スギ	その他針葉樹
ヒノキ	広葉樹
カラマツ	竹林
アカマツ・クロマツ	伐採跡地
	その他

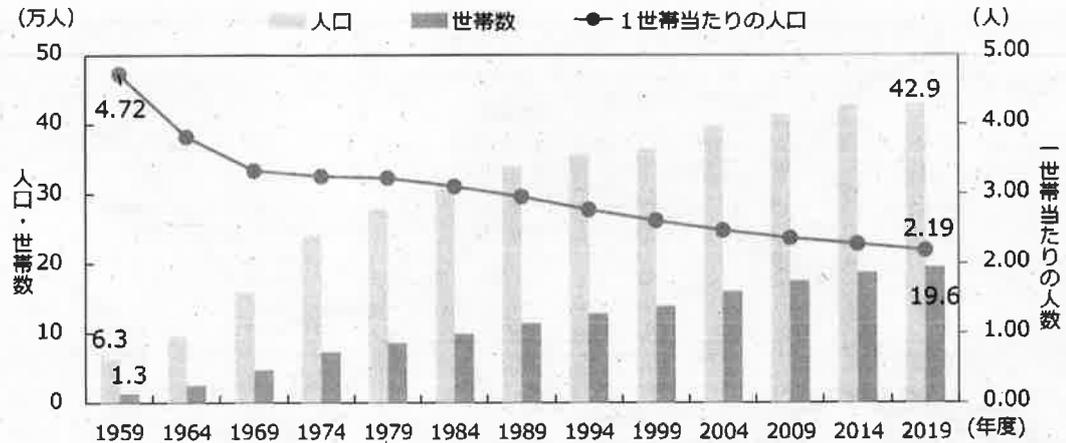
主題図	林相区分図
対象地区	全域
縮尺	1:30,000
作成年月	2020年3月



## 5. 計画策定の背景

### (1) 町田市の人口構成の変化

町田市の人口は、2019年1月1日時点では、総人口が42万8,685人、世帯数が19万5,643世帯となっています。人口及び世帯数は増加傾向にあります。1世帯当たりの人口は、減少傾向となっています。



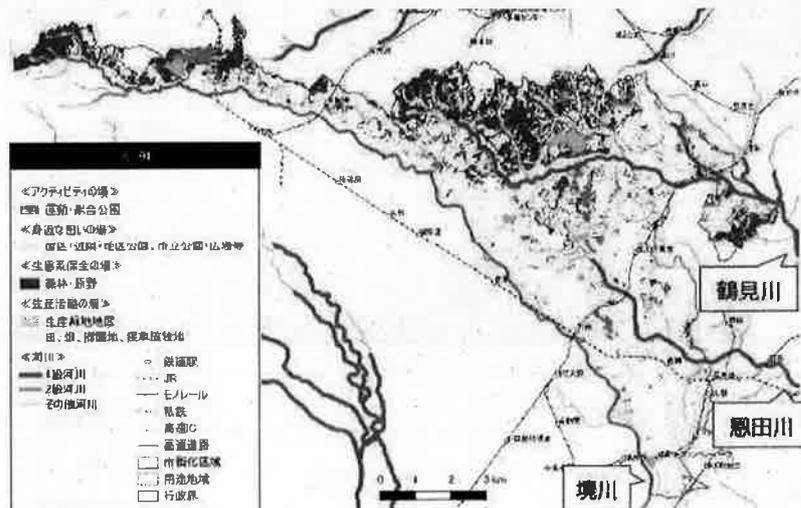
※出典：第3次町田市環境マスタープラン（案）

### (2) 町田市の水とみどり

市内には鶴見川や恩田川のような1級河川を含んだ豊富な水資源や大小様々なみどりがあり、北部に広がる森林などは生態系保全の重要な緑となっています。

また、市内には生産緑地などの都市農地も多く点在しており、今後こうした場所で農を介して、様々な人をつなげていく取組も進められようとしています。

#### <自然的土地利用および河川の分布>



出典：国土交通省「国土数値情報ダウンロードサービス」、東京都「都市計画基礎調査（2017年）」から作成

※出典：（仮称）町田市都市づくりのマスタープラン（原案）

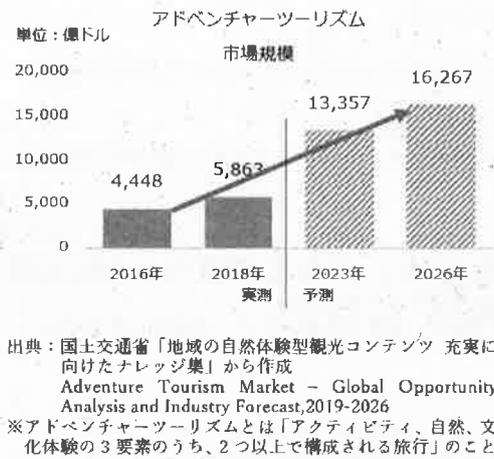
### (3) 価値観やライフスタイル・暮らし方の多様化

近年、アドベンチャーツーリズム※や、市民農園の需要が増えるなど、自然やみどりに触れ合う機会が求められています。農産物直売所の売り上げも伸びており、地域の新鮮な農産物が求められ健康意識が高まっていることが伺えます。

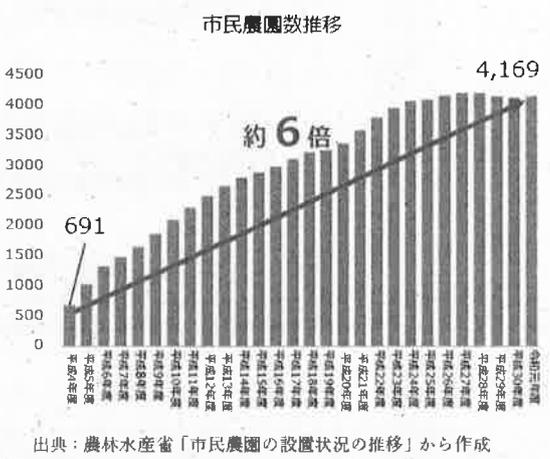
また、テレワークの普及などにより、場所を選ばない働き方が可能になるとして、自然に囲まれた中で仕事を行えるワーケーションなどが注目を集め、みどり豊かな郊外の魅力が再認識されています。

今後はさらに、働く・遊ぶ・食べるなどの価値観が変化し、ライフスタイルや暮らし方がさらに多様化することが想定されます。

＜緑の中での遊びの普及＞



＜市民農園の増加＞



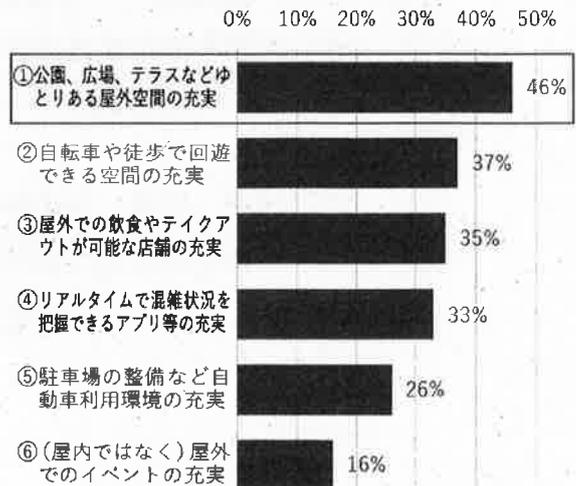
※出典：(仮称) 町田市都市づくりのマスタープラン (原案)

### (4) ウィズコロナ・アフターコロナ

コロナ禍の影響により、人との間隔を確保できる公園、広場、テラスなどゆとりある屋外空間の充実が求められています。また、住まい選びでも「利便性」だけでなく、緊急時の安全・安心や、テレワーク等の新しい暮らし方のための環境の充実といった点が重視されるなど、住まいに求められる要素が変化しています。

こうした価値観の変化は人口移動にも影響が表れており、都心部の自治体は2020年に入り転入増加数が大幅に減少した一方、30~40km圏の郊外自治体では増加を続けています。

＜コロナ禍を経て充実してほしい空間＞



※出典：(仮称) 町田市都市づくりのマスタープラン (原案)

## (5) グリーンインフラについて

様々な社会的課題、経済的課題の解決方法の一つとしてグリーンインフラの活用が期待されています。グリーンインフラを活用することで、以下の成果が期待されています。

町田市の里山においても、グリーンインフラの活用を視野に入れた取組が期待されています。

### (1) 気候変動への対応

緩和策であり適応策でもあるグリーンインフラ

### (2) グローバル社会での都市の発展

官民が連携して、グリーンインフラの取組を推進し、グローバル社会での都市間競争を勝ち抜く魅力ある都市空間の形成が重要

### (3) SDGs(持続可能な開発目標)、ESG投資等との親和性

グリーンインフラは、SDGsの目標を実現するための基盤。  
環境に高い関心を有する民間資金を呼び込み、環境と共生したインフラ整備や土地利用の推進を期待

### (4) 人口減少社会での土地利用の変化への対応

人口減少社会で増加する管理放棄地や低未利用地の解決策の一つとして、グリーンインフラの取組に期待

### (5) 既存ストックの維持管理

社会資本の老朽化が進行し、維持管理の担い手が減少する状況で、維持管理分野におけるグリーンインフラの効果的な取組について検討を進めることが重要

### (6) 自然と共生する社会の実現

豊かな自然環境を維持し、緑と水のネットワークを形成することにより、生物多様性の保全と自然と共生する社会を実現

### (7) 歴史、生活、文化等に根ざした環境・社会・経済の基盤

多様な主体が参画するGIの取組を通して、  
地域特有の環境・社会・経済の基盤である自然資産の持続的な維持管理が求められている

## (6)持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)の実現

持続可能な開発目標 (SDGs) とは、2015 年 9 月の国連サミットで採択された、持続可能な世界の実現のために 2030 年までに世界中で取り組む国際目標です。持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するための 17 のゴールから構成され、未来を見据えたバックキャストの発想を活用し「誰一人取り残さない」ために、先進国を含めた全ての国で取り組みが進められています。

町田市がこれまでに進めてきたまちづくりの取り組みは、多くの点でSDGsの理念や目標と合致することから、引き続き「まちだ未来づくりビジョン 2040」における、政策や施策の推進を通してSDGsの実現に貢献していきます。

本冊子では、ビジョンとSDGsの関係をわかりやすく示すため、「まちづくり基本目標」「経営基本方針」に掲げる各施策・各方針とSDGsとの結びつきを記載しています。



出典：まちだ未来づくりビジョン 2040（答申）

## 第2章 町田市の里山の現状と課題

### 1. 町田市全体の里山の現状

#### (1) 里山の現状

近年、自然環境への意識の高まり等により里山には多くの方が訪れています。一方で、高度経済成長に伴う産業構造や生活様式の変化等によって、それまで続いてきた土地の所有者をはじめとする住民による地域の資源の循環が途切れています。

町田市の里山は、都市基盤の整った市街地が間近にある中で豊かな緑に恵まれ、今でも農の環境が残っており、数多くの歴史・文化の足跡も見ることができます。



#### 町田市の里山の特徴

- 広域的な緑のネットワークの一翼を担う大緑地帯である
- 大都市直近にあり、多摩丘陵の原風景を色濃く残す希少な地域である
- 生物の生息・繁殖環境として恵まれた環境が一部に残されている
- 中世から現代まで、町田市の歴史・文化の足跡が蓄積されている
- 減少しつつあるものの、現在でも農の環境が残っている
- フットパスの取組や湧水、里山の環境を再生・保全する活動が行われている

### (3)これまでの取組

- ・地域で収穫・生産した農産物の販売
- ・ボランティアや地域の団体による保全活動
- ・フットパスの環境整備、活用
- ・民間事業者によるイベント等



谷戸の風景



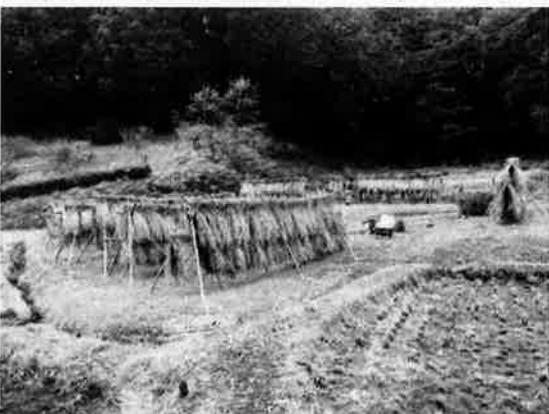
たけのこ掘り



四季彩の森 芋ほり



冬の奈良ばい谷戸



奈良ばい谷戸の稲刈り



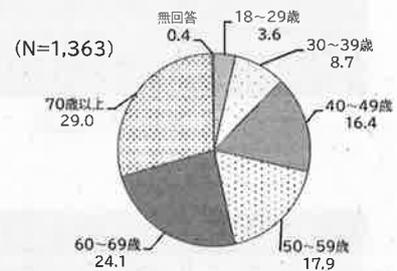
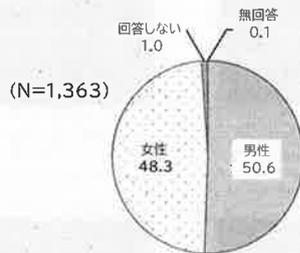
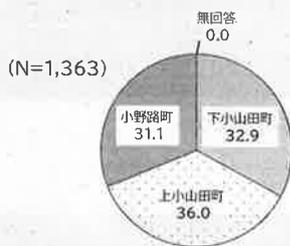
樹木の伐採

## 2. 住民・来訪者の意識

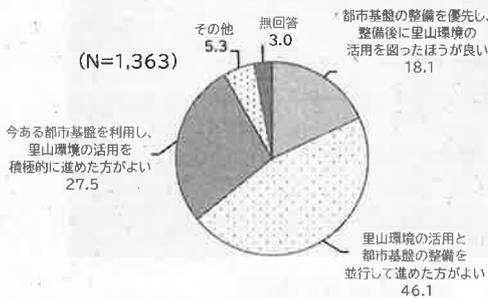
### (1) 地域住民のニーズに関する調査

調査対象	調査方法	回収数	主な項目
上小山田町エリア 1,000名 下小山田町エリア 1,000名 小野路町エリア 1,000名 計 3,000名	各世帯2通、 ポスティング による配布・ 郵送回収	1,363	・回答者の属性 ・里山への関心行動の段階 ・活動(団体)の認知度 ・活動への参加希望 ・主体的行動への意欲 ・関心・行動のきっかけ ・求めること 等

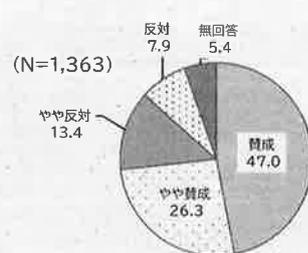
#### ①回答者の属性



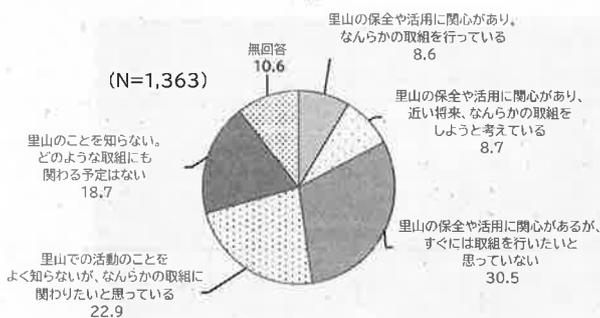
#### ②里山環境に対する考えが参画することについて



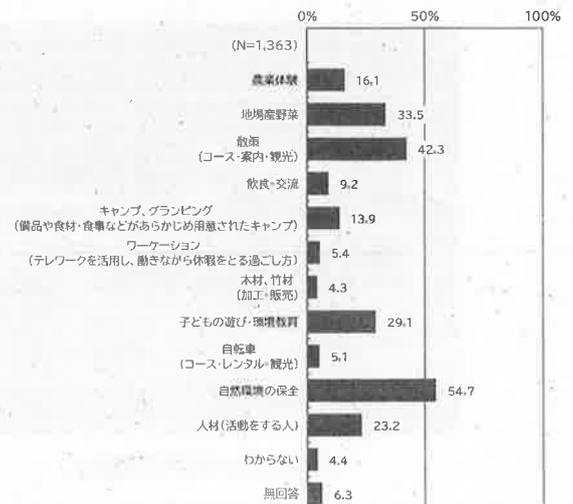
#### ③北部丘陵以外のエリアの人や団体



#### ④里山への関心行動の段階



#### ⑤重要だと思うキーワード

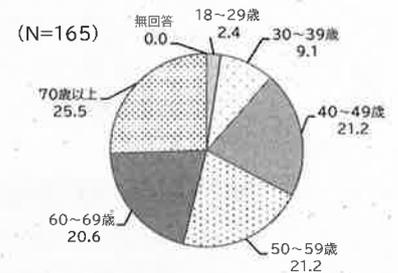
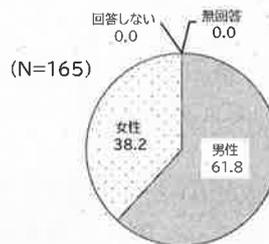
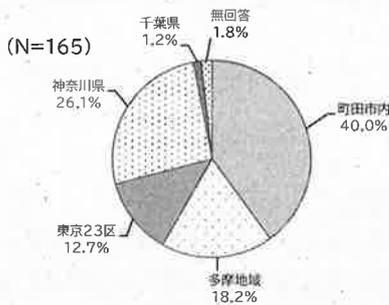


出典：里山環境の保全・活用に関する意識調査

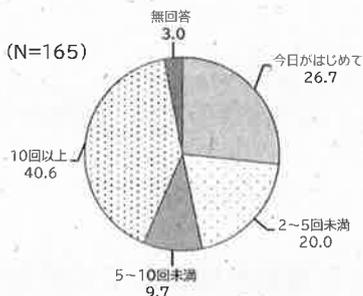
## (2) 来訪者のニーズに関する調査

調査対象	調査方法	回収数	主な項目
小山田緑地来訪者、 小野路宿里山交流館 の来館者  計 200 名程度	直接配布・ 郵送回収	165	<ul style="list-style-type: none"> <li>回答者の属性</li> <li>里山への関心行動の段階</li> <li>イベント参加・来館のきっかけ</li> <li>活動（団体）の認知度</li> <li>活動への参加希望</li> <li>主体的行動への意欲</li> <li>求めること</li> </ul>

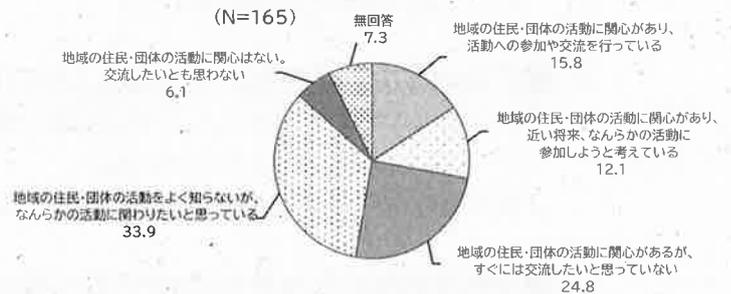
### ①回答者の属性



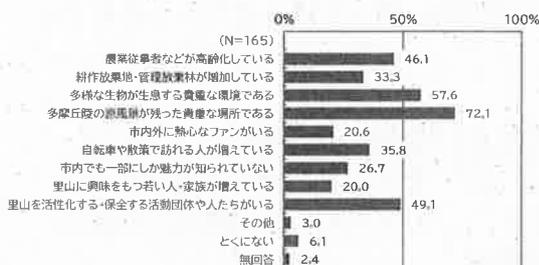
### ②今回の目的での来訪は何回目か



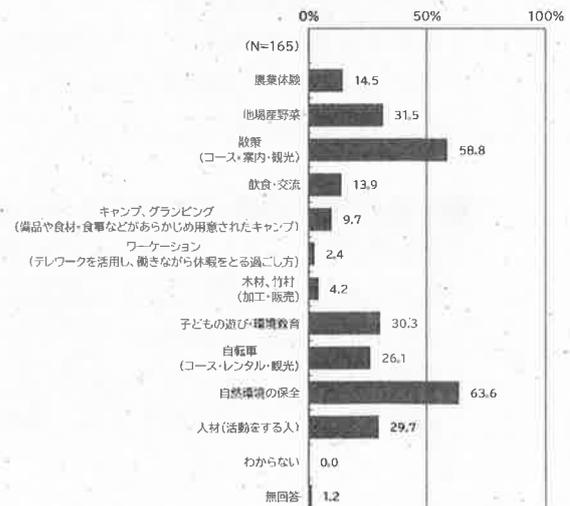
### ③里山への関心行動の段階



### ④町田の里山について知っていること



### ⑤重要だと思うキーワード



出典：里山環境の保全・活用に関する意識調査

### (3) 地域住民の暮らしに関するヒアリング調査

#### ①調査対象者

	性別	年代	居住エリア	職業
1	男性	80歳代	小野路	農業
2	男性	70歳代	下小山田	不動産業
3	男性	70歳代	上小山田	会社経営

#### ②主なヒアリング内容

##### ■子どもの頃は、一日をどのように過ごしていましたか。

- ・小学6年生頃から、牛に犁（からすき）を引かせた土起こしを手伝った。自然の中での力の使い方を学んだ。
- ・学校から帰ってくると畑仕事の手伝いをさせられた。早く終わらせたかったので、効率的に作業ができるように工夫をした。

##### ■昔と今の町田市の里山はどのように変わったと感じていますか。

- ・地産地消は大事だが、今はより一層、生産者と消費者のバランスが大事になっている。消費者側に無農薬野菜の気運があったが、高度経済成長期に作る側からの「ごまかされたモノ」も増えた。
- ・子どもの頃は、家のまわりに田んぼがたくさんあったが、今は殆どなくなってしまった。国の減反政策の影響が大きい。

##### ■この地域の自然を生かす知恵などがあれば教えてください。

- ・谷戸地形のため日当たりの良い場所悪い場所がある。適地適作の知恵が培われており、伝えていきたいと考えている。
- ・気候条件を理解しながら冬を越える作物を育てていくことも重要である。

##### ■今は使わなくなったもの、やらなくなったことなどがあれば教えてください。

- ・竹も多様な場面で利用してきたが、今はない。海苔の竿、梨棚、物干し竿として昔はかなり需要があった。
- ・自然を生かす循環のサイクルがなくなった。
- ・子どもの頃は、山の中で遊んだり、山道を通って学校に通ったりしたが、今の子ども達は山の中に入らなくなった。

##### ■今後町田市の里山はどのようになっていくとよいと思いますか。

- ・最低限のインフラ（道路、公共交通、コンビニなど）を整備し、地域住民が暮らし続けられるようにすることが重要だ。それに加えて、エリア外の人や企業などの力を借りて里山環境を活かし、守っていくことが必要だ。
- ・農業でも観光でも、ちゃんと稼ぐことを考えなくてはならない。
- ・人が来て稼ぐことができれば、活性化していく。

### 3. 町田市の里山の課題

これまでの取組や市場調査と地域ヒアリングの結果等をふまえ、町田市の里山の課題を以下のように整理しました。

地域の資源の循環が途切れ、人の手が入らない山林や農地が増え里山が荒廃した結果、生態系等の変化や景観の悪化のほか、不法投棄も行われるなど生活環境も以前と比較し悪化しています。また、コロナ禍を経て来訪者が増加しつつありますが、私有地への立ち入りなどマナーやモラルに関する課題もあり、里山の魅力を適切に発信するとともに地域住民と来訪者双方にとってよい関係性を構築することが必要です。

里山環境が荒廃している要因を深掘りすると、次のようなことが考えられます。1つ目として、地域住民の高齢化・経済的な負担の増加や町田市の里山で活動するボランティア等の団体のメンバーも高齢化してきており、活動の担い手不足への対応など、多様な主体が連携・協働して地域課題の解決に取り組んでいくことが求められています。2つ目として、近年特定の虫が媒介するナラ菌により、ミズナラ等が集団的に枯損する「ナラ枯れ」が全国的に発生しています。ナラ枯れによる倒木の発生が懸念されることから、対策が求められています。

今後は、こうした地域・社会の課題に対して、民間事業者等とも連携を進め、町田市の里山を地域の社会基盤（グリーンインフラ）として捉え、様々な活動を下支えできる環境を整備していくことも重要といえます。

このことから、里山環境を再生し、持続可能な保全につなげる時代に即した新たな循環サイクルを構築がこれからの町田市の里山の課題であるといえます。

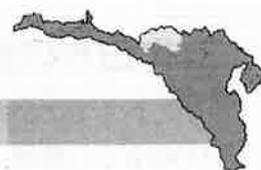
### 4. エリアの区分

市内の市街化調整区域<sup>※1</sup>を以下のように区分します。相原エリア、小山田エリア（上小山田町、下小山田町、函師町の一部）、小野路エリア（野津田町、真光寺の一部）、三輪エリアを単位として、地域ごとの現状と課題、ビジョンを整理していきます。



※1 市街化調整区域：都市計画法では、都市計画区域を「市街化区域」と「市街化調整区域」に区分することにより、無秩序な市街化を防止し、計画的な市街化を図ることを目的としています。市街化区域は、すでに市街地を形成している区域とおおむね10年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域ですが、市街化調整区域は、市街化を抑制するべき区域です。

## 5. エリアごとの現状と課題



### 【小山田エリア】

#### (1)現状

小山田エリアは、町田市北部に位置し、多摩市や八王子市の多摩ニュータウンに接する地域です。多摩丘陵の大きな緑地帯を抱え、一帯が鶴見川の源流域となっており、複数の尾根と谷戸によって構成される丘陵地です。

大部分は市街化調整区域となっており、農地も多く、里山の原風景を今に残す自然環境豊かな地域です。

小山田緑地の一部は、1961年に風致地区に指定されました。また、その他のまとまったみどりも都市計画緑地や東京都保全地域の歴史環境保全地域などに指定され保全されています。

#### (2)地域特性

##### ①自然環境

###### ア. 地形

地域のほぼ全域が丘陵地にあり、多摩市との境にある標高150m前後の尾根を最高に、起伏に富んだ複雑な地形が見られます。そのため多くの谷戸が点在しており、谷戸山と農地が一体となった谷戸を形成しています。

###### イ. 景観

起伏に富んだ地形によってつくられる様々な眺望が見られます。空間の開けた場所では尾根の稜線の随所で見られ、場所によっては大山・丹沢の山並みや、その向こうにそびえる富士山を望むこともできます。また河川や街道沿いからは、丘陵の稜線の緑が帯のように連なる姿を見ることもできます。

地域内には多くの古道があり、歴史的な趣と豊かな自然が融合した景観が形成されています。

##### ②社会環境

###### ア. 人口・世帯数

2021年(令和3年)4月1日現在

地域	世帯数	人口	男	女
町田市総数	201,449	429,645	210,121	219,524
小野路町	1,987	3,716	1,907	1,809
上小山田町	1,801	4,686	2,351	2,335
下小山田町	1,789	3,864	1,904	1,960
相原町	7,056	14,927	7,243	7,684
三輪町	3,204	6,638	3,509	3,129
	15,837	33,831	16,914	16,917

## イ. 歴史

奥州への古い街道沿いに発達した由緒ある里です。小山田一族は桓武平氏の出であり、城主有重の子ら6兄弟は鎌倉幕府の御家人として大活躍したことが知られています。小山田城址は大泉寺にあります。

## ウ. 観光・コミュニティ(活動団体等)等

- 鶴見川源流保水の森
- 都立小山田緑地
- 大谷里山農園
- 小山田ブルーベリー園
- 小山田苗圃
- 市立室内プール
- 蓮田公園(予定)
- 尾根緑道

## エ 団体

- NPO法人鶴見川源流ネットワーク
- 田中谷戸街づくり協議会
- 小山田中部街づくり協議会
- (社)まちやま
- 小山田の森委員会
- 町田マウンテンバイク友の会

## (3)地域の課題

- 住民の日常生活の利便性・安全性の向上
- 農業に従事している住民の高齢化や後継者不足
- 手入れの行き届かない樹林地・農地の増加



## 【小野路エリア】

### (1)現状

小野路エリアは小山田エリアと同様に、町田市北部に位置し、多摩ニュータウンに接する地域です。多摩丘陵の大きな緑地帯を抱え、鶴見川の源流域となっており、複数の尾根と谷戸によって構成される丘陵地です。谷間を走る街道沿いに街並みが形成され、江戸時代に宿場としてにぎわった小野路宿や寺社など歴史的資源が点在しています。

大部分は市街化調整区域となっており、農地も多く、里山の原風景を今に残す自然環境豊かな地域です。

国の「生物多様性保全上重要な里地里山」として「図師小野路歴史環境保全地域及び奈良ばい谷戸」が選定されています。

### (2)地域特性

#### ①自然環境

##### ア. 地形

地域のほぼ全域が丘陵地にあり、起伏に富んだ複雑な地形が見られます。そのため多くの谷戸が点在しており、谷戸山と農地が一体となった谷戸の景観を形成しています。

##### イ. 景観

起伏に富んだ地形によってつくられる様々な眺望が見られます。空間の開けた場所では尾根の稜線の随所で見られ、場所によっては大山・丹沢の山並みや、その向こうにそびえる富士山を望むこともできます。また河川や街道沿いからは、丘陵の稜線の緑が帯のように連なる姿を見ることもできます。

小野路城址、万松寺など、地域の歴史・文化を物語る景観が見られます。地域内には多くの古道があり、歴史的な趣と豊かな自然が融合した景観が形成されています。

#### ②社会環境

##### ア. 人口・世帯数

2021年(令和3年)4月1日現在

地域	世帯数	人口	男	女
町田市総数	201,449	429,645	210,121	219,524
小野路町	1,987	3,716	1,907	1,809
上小山田町	1,801	4,686	2,351	2,335
下小山田町	1,789	3,864	1,904	1,960
相原町	7,056	14,927	7,243	7,684
三輪町	3,204	6,638	3,509	3,129
	15,837	33,831	16,914	16,917

## イ. 歴史

「奈良ばい」は小山田氏や後北条氏の出城であった小野路城と小山田城を結ぶ城道でした。小野路城址、小町井戸などの史跡を含め、当エリアの南部は東京都歴史環境保全地域に指定されています。

## ウ. 観光・コミュニティ(活動団体等)等

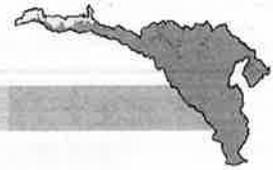
- 小野路宿里山交流館
- 小島資料館
- ヨリドコ小野路宿
- 小野路宿通り
- 野津田公園
- 小野路ブルーベリー園
- ハンドメイドの工房 (家具工房 KASHO、山崎ギター工房、尺八工房 ふなぎら、柏葉窯陶芸教室)

## エ 団体

- NPO法人小野路街づくりの会
- NPO法人まちだ結の里
- NPO法人みどりのゆび
- あした農場
- おおりりファーム
- 小野路ぶどう園

## (3)地域の課題

- 農業に従事している住民の高齢化や後継者不足
- 手入れの行き届かない樹林地・農地の増加
- 地域住民が安心して暮らせる環境整備



## 【相原エリア】

### (1)現状

相原エリアは、町田市西端に位置し、八王子市、相模原市に隣接する東西に細長く南北に高低差がある地域です。地域を横たわるように多摩丘陵の緑地帯が連なり、丘陵地の南側に境川が流れ、それに沿って町田街道が走っています。

八王子とつながる町田街道はかつて「絹の道」と呼ばれ、街道沿いに街並みが形成されてきました。1908年には相原駅も開設されるなど、今日の地域の姿は比較的早い時期に形成されています。また、高度成長期以降には複数の大学が立地しました。

地域北側の大半は多摩丘陵の豊かな自然環境に恵まれ、これらは市街化調整区域となっています。地域の西端には境川の源流があり、この一帯は大戸緑地として保全されているほか、野外活動や宿泊ができる市の施設として大地沢青少年センターが整備されています。

### (2)地域特性

#### ①自然環境

##### ア. 地形

地域は東西に細長く、南を流れる境川付近から北に向かって、低地、台地、丘陵地が連続しています。また境川からは幾筋の谷戸が広がり、町田市の地形の特徴が凝縮された地域です。

##### イ. 景観

西端の大戸緑地や地域北側の丘陵地には、豊かな樹林が残り、全体として緑豊かな景観が見られます。一方で、多摩境駅を中心に、多摩境通り周辺は近年開発整備が進み、緑が少なくなるなど景観の急速な変化が見られます。また、地域を東西に貫く町田街道沿いは、商業施設が建ち並ぶ一方で、旧街道の面影を残す場所も見られます。

#### ②社会環境

##### ア. 人口・世帯数

2021年(令和3年)4月1日現在

地域	世帯数	人口	男	女
町田市総数	201,449	429,645	210,121	219,524
小野路町	1,987	3,716	1,907	1,809
上小山田町	1,801	4,686	2,351	2,335
下小山田町	1,789	3,864	1,904	1,960
相原町	7,056	14,927	7,243	7,684
三輪町	3,204	6,638	3,509	3,129
	15,837	33,831	16,914	16,917

## イ. 歴史

町田街道の北側を中心に神社や寺が多く立地しています。円林寺、清水寺、諏訪神社などの寺社では、大きく育った敷地内の立派な樹木や周辺の緑と一体となった景観が見られます。清水寺のアカガシ群落は、市指定天然記念物にもなっています。また、青木家住宅、長福寺、田端環状積石遺構、相原窯跡など、多くが文化財や史跡に指定され、地域の歴史・文化を物語る景観が見られます。

## ウ. 観光・コミュニティ(活動団体等)等

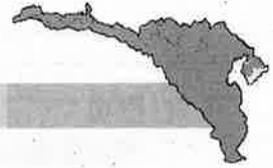
○

## エ 団体

○

## (3)地域の課題

- 住民の日常生活の利便性・安全性の向上
- 相原駅周辺のにぎわいづくりと生活を支える機能の向上
- 多様な主体の連携・協働のしくみづくり



## 【三輪エリア】

### (1)現状

三輪エリアは、町田市の北東部に位置し、そのほとんどが川崎市や横浜市に接する地域です。鶴見川やその支流の周辺は低地で、その他は丘陵地となっており、起伏の豊かな地域となっています。

1927年の小田急線鶴川駅の開設を皮切りに土地区画整理事業などの面的な整備によって農村から住宅地としての変遷を遂げましたが、三輪町には市街化調整区域があり、横浜市までつながるまとまったみどりが残っています。

国の「生物多様性保全上重要な里地里山」として「三輪町の森」が選定されています。(環境マス)

### (2)地域特性

#### ①自然環境

##### ア. 地形

町田市の北東部に位置し、川崎市や横浜市に隣接する地域です。河川や街道沿い、小田急線沿いの低地部分から幾筋もの丘陵の尾根が連なるなど、高低差に富み、起伏が豊かな丘陵地の地形が見られます。

緑豊かな丘陵の尾根に囲まれた住宅地や、里山や谷戸の田園風景がみられる一方で、鶴川団地など面的な整備が行われてきました。近年でも大規模な宅地開発が行われるなど、急激に変化している景観も見られます。

##### イ. 景観

妙福寺周辺を含む一帯には、緑が深く典型的な谷戸の景観が見られます。幾筋もの尾根と谷によって複雑に入り組んだ地形は、さまざまな場所からさまざまな方向に眺望を体験することができます。地形の低い場所を流れる鶴見川や真光寺川からは、間近に迫る緑の斜面の尾根線が見られます。

#### ②社会環境

##### ア. 人口・世帯数

2021年(令和3年)4月1日現在

地域	世帯数	人口	男	女
町田市総数	201,449	429,645	210,121	219,524
小野路町	1,987	3,716	1,907	1,809
上小山田町	1,801	4,686	2,351	2,335
下小山田町	1,789	3,864	1,904	1,960
相原町	7,056	14,927	7,243	7,684
三輪町	3,204	6,638	3,509	3,129
	15,837	33,831	16,914	16,917

## イ. 歴史

特に三輪町や能ヶ谷町の丘陵地には、緑豊かな自然環境と一体となった西谷戸横穴墓群や寺社など、他の地域と比べても多くの歴史的資産が残ります。

また、文化財に指定されているものもあります（妙福寺祖師堂・本堂鐘桜門・高麗門、熊野神社本殿、白洲次郎・正子旧宅）。

## ウ. 観光・コミュニティ(活動団体等)等

○

## エ 団体

○

## (3)地域の課題

- 住民の日常生活の利便性・安全性の向上
- 住宅地の特性に応じた住環境の維持・更新
- 多様な主体の連携・協働のしくみづくり

## 第3章 里山環境の再生・保全に向けた基本方針

### 1. 基本的な考え方

町田市の里山の現状と課題、里山環境をめぐる動向等をふまえ、地域住民の生活環境を整え、来訪者とともに里山を再生・保全・活用していく「時代に即した新たな循環サイクル」を構築するために、町田市の里山の将来像を「住む人も訪れる人も居心地のよい まちだの里山」とします。

里山環境を再生し、その環境・資源を保全・活用につなげることで、まちだの里山がそこに住む人・訪れる人にとって居心地がよく将来に渡って持続可能なものとなることを目指します。

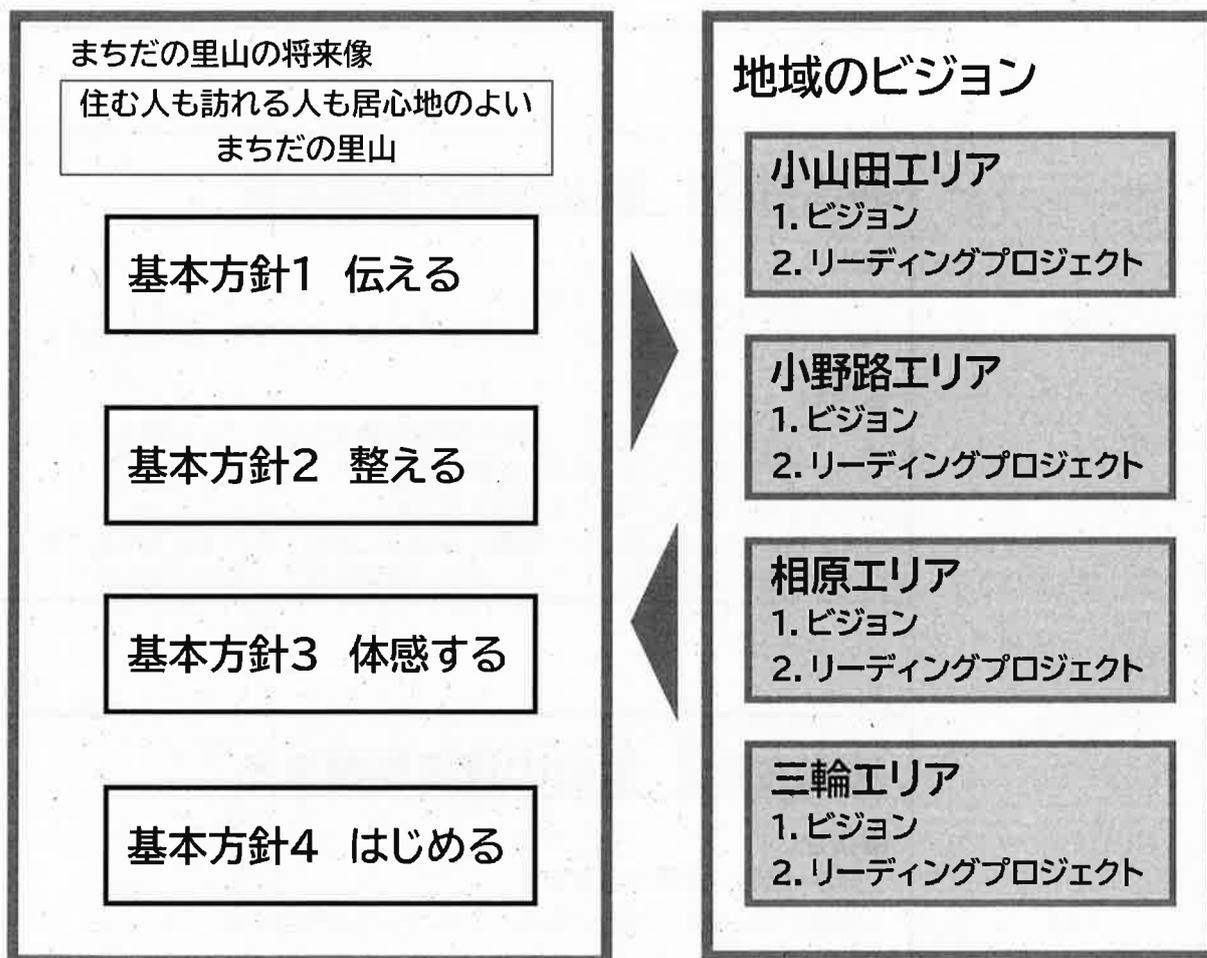
そして、人と自然が共生し、時代に即した新たな資源の循環により、持続可能な環境が形成・維持されることを目指します。

#### (1) まちだの里山の将来像

### 住む人も訪れる人も居心地のよい まちだの里山

※写真等

(2)まちだの里山の将来像とエリア別の地域のビジョン



## 2. 基本方針

将来像

住む人も訪れる人も

### 基本方針1 里山の魅力を伝える

#### ■視点

- ・人・団体への周知に取り組む
- ・住んでいる人、訪れる人、まだ訪れていない人に地域の魅力を伝える

#### ■目的

- 多世代の在住者がまちだの里山が貴重な場所ということを知るため
- 来訪者が地域の住民・団体の活動を知るため
- 広くまちだの里山の魅力を発信するため
- まちだの里山での暮らしの魅力を発信し、移住・定住を促進するため
- まちだの里山での暮らしにあこがれや愛着を抱く人を増やすため

### 基本方針2 里山の環境を整える

#### ■視点

- ・環境の再生・整備を推進する
- ・多様な人が関わり続けられるしくみづくりを推進する

#### ■目的

- まちだの里山の自然資源を活用した事業を実施する環境を整えるため
- 自然体験のニーズに応える事業を実施する環境を整えるため
- 地域内外の人・団体が持続的に里山環境を活用する基盤を構築するため
- 市内外の人や団体の活動を受け入れるため

## 居心地のよい まちだの里山

### 基本方針3 里山を体感する

#### ■視点

- ・実際に現地に訪れる人を増やす
- ・地域住民と来訪者の交流を促進する

#### ■目的

- 実際に訪れてまちだの里山の魅力を体感してもらうため
- 訪れる人と地域の人・団体が交流するため
- 訪れた人の満足度を高めるため

### 基本方針4 里山ではじめる

#### ■視点

- ・ここで何か始めてみようとする人を後押しする
- ・新たな交流の機会を生み出す

#### ■目的

- 地域が活性化し人の目が入ることで不法投棄の抑止など、安全・安心な里山環境を実現するため
- 町田市街地の事業者による事業を受け入れるため
- 生産地であることを活かし、商売を始める基盤を構築するため

## 第4章 里山環境の再生・保全に向けた具体的な取組

### 1. 町田市全体のリーディングプロジェクト(案)

<p><b>1 里山環境(山林・農地)の再生と活用</b></p> <p>※里山環境を再生する            ⇒・山林や農地の再生(不法投棄や景観など生活環境悪化の要因となっている山林の間伐を実施)</p> <p>※事業者等と連携して里山の環境・資源を活用する            ⇒・里山から発生する木材の搬出など、里山の資源を有効に活用するために必要なインフラの整備(林道の整備など)</p> <p>※より一層居心地のよい暮らしを実現する            ・里山で活動したい人を受け入れる環境の整備            ・人々が交流する場の整備            ・里山への来訪者が安心して楽しむことができるように散策ルートの整備や道標の設置</p>	<p>対応する基本方針</p> <p><input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4</p>
<p><b>2 活動に参画する団体や企業・個人など、担い手の育成と支援</b></p> <p>※実際に里山を訪れ・関わる人を増やす            ※事業者等と連携して里山の環境・資源を活用する(再掲)            ・里山で活動する団体等について、その活動が将来に渡って持続可能なものとなるよう、必要に応じた支援を行う。</p>	<p>対応する基本方針</p> <p><input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4</p>
<p><b>3 「まちだの里山」の戦略的な情報発信</b></p> <p>※実際に里山を訪れ・関わる人を増やす(再掲)            ※地域内外の認識や認知度の向上に取り組む            ・里山での活動に興味がある団体等に対して情報を発信する</p>	<p>対応する基本方針</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4</p>

※前回会議資料「7 計画の構成(案)」より引用

## 2. エリアごとの取組



### 【小山田エリア】

#### 1. 地域のビジョン(たたき台)

地域住民と来訪者が交流し、お互いに居心地のよさを感じることができるよう、里山を再生することから取組を進めていきます。

本エリアでは以下のビジョンを掲げ、リーディングプロジェクトを推進していきます。

**だれもが居心地のよさを  
感じる事ができる里山環境の再生と活用**

- 地域住民の安全・安心につながる里山環境の再生
- 多様な主体の連携・協働による豊かな農環境・資源の活用、自然資源の活用

#### 2. リーディングプロジェクト(案)

プロジェクト	対応する基本方針	2022	2023	2024	2025	2026	後期5年
1 拠点施設の整備	1 2 3 4						
①自転車や散策などを楽しむ来訪者の休憩、地域住民と来訪者が交流する場の整備（交流回遊拠点） ②小山田小学校北側の山林をはじめ、630号線沿線の山林を再生し、地域の子もたちや住民、来訪者が森を楽しみ、マウンテンバイクやドローン、ジップラインなどをはじめとする活動ができる場を整備							
プロジェクト	対応する基本方針	2022	2023	2024	2025	2026	後期5年
2 農を活用した地域の賑わいの創出	1 2 3 4						
農業が盛んな地域の特性を活かし、「農」をテーマとして農業従事者や地域住民・来訪者が交流する場の創出（例：観光農園）→環境の充実							
プロジェクト	対応する基本方針	2022	2023	2024	2025	2026	後期5年
3 新たな取組の定着化	1 2 3 4						
①民間事業者等と連携・協働し里山環境を活用して地域の活性化や環境の保全につながる事業の実施 ②（仮称）里山クリーンアップキャンペーンといった環境の再生・保全の取組の企画・実施 ③山林の再生により発生した木材を活用できる場の整備							



## 【小野路エリア】

### 1. 地域のビジョン(たたき台)

多様な担い手との連携・協働・交流により、貴重な里山や営農環境の保全と継承を推進し、居心地のよさを感じることができるよう、里山を活用する取組を進めていきます。

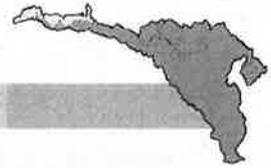
本エリアでは以下のビジョンを掲げ、リーディングプロジェクトを推進していきます。

### 豊かな自然・歴史資源や 農環境を活用した交流の促進

- 多様な主体の連携・協働による豊かな農環境・資源の活用、自然資源の活用
- 民間事業者等と連携した里山環境の積極的な活用

### 2. リーディングプロジェクト(案)

プロジェクト	対応する 基本方針	2022	2023	2024	2025	2026	後期5年
1 竹林の再生と活用	1 2 3 4						
<p>持続可能な保全につながる小野路町に多い竹林の再生、竹材を活用したワークショップの開催や食品の開発などにより、地域への来訪者促進につなげる</p>							
プロジェクト	対応する 基本方針	2022	2023	2024	2025	2026	後期5年
2 新たな取組の定着化	1 2 3 4						
<p>①散策ルートの再整備 ②(仮称)里山クリーンアップキャンペーンの企画・実施</p>							



## 【相原エリア】

### 1. 地域のビジョン(たたき台)

既存の活動団体の横のつながりや地域コミュニティを醸成し、多くの人が歴史や文化とふれあいながら里山環境を活用していくための取組を進めていきます。

本エリアでは以下のビジョンを掲げ、リーディングプロジェクトを推進していきます。

### 多様な主体の連携・協働による 里山環境の活用

- 既に地域で活動している市民の間におけるビジョンの共有
- 新たな活動を後押しする地域の基盤づくり

### 2. リーディングプロジェクト(案)

プロジェクト	対応する 基本方針	2022	2023	2024	2025	2026	後期5年
1 新たな取組につながる体制づくり	1 2 3 4						
地域住民や団体、事業者等との連携など、里山環境の活用につながる体制づくりに取り組む							
プロジェクト	対応する 基本方針	2022	2023	2024	2025	2026	後期5年
2 新たな取組の定着化	1 2 3 4						
①里山を活用したアートイベントの検討 ②地域で活動する若い世代との連携・協働のしくみづくり							



## 【三輪エリア】

### 1. 地域のビジョン(たたき台)

団体の活動や取組を通して多くの人が地域の自然・歴史・文化資源にふれあうことができる里山環境の実現につながる取組を進めていきます。

本エリアでは以下のビジョンを掲げ、リーディングプロジェクトを推進していきます。

### 自然・歴史・文化資源にふれあえる 里山環境の実現

- 既に地域で活動している市民の間におけるビジョンの共有
- 自然・歴史・文化資源への地域の理解促進

### 2. リーディングプロジェクト(案)

プロジェクト	対応する 基本方針	2022	2023	2024	2025	2026	後期5年
1 既存の計画に基づく事業の推進	1 2 3 4						
美しい谷戸田のある風景などの豊かな自然環境の保全に取り組みます。また、多くの人が自然環境を通じた学びや歴史にふれあえる機会を充実していきます。							

## 第5章 計画の推進にあたって

---

### 1. 推進体制

## 2. 進行管理

各施策を円滑に遂行するため、関連する庁内各課と密に情報交換を行っていきます。また、市民、地域団体など多様な主体と連携・協働しながら各施策を推進していきます。

本計画を推進し5年目に、状況に応じて計画の中間見直しを検討します。

2022年4月～2027年3月				2027年4月～2032年3月	
			2026年度		
→				中間見直し (検討)	→

# 資料編

---

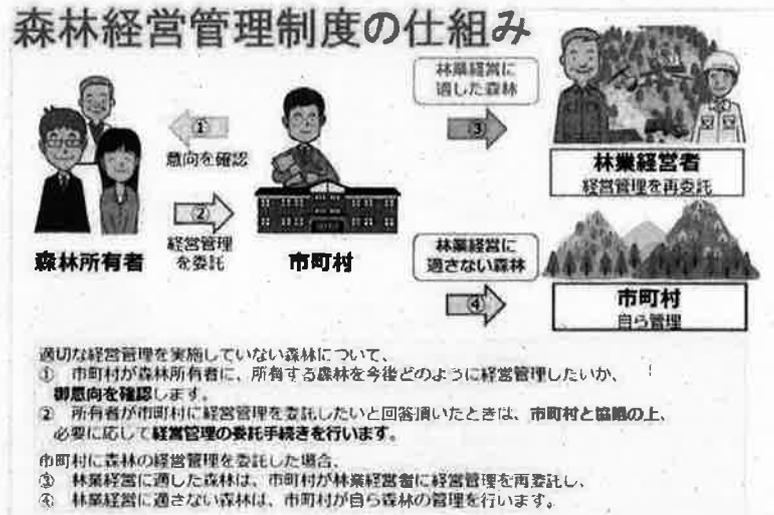
## 1. 航空写真等

## 2. 活用を検討する制度

### ■森林経営管理制度

経営管理が行われていない森林を市町村が仲介役となり森林所有者と民間事業者をつなぐことで適切な経営管理を行う林野庁の制度です。当制度を活用することにより、「1. 放置された森林が経済ベースで活用され、地域の活性化につながる効果」「2. 森林の多面的機能が向上し、土砂災害等の発生リスクが低減され、地域住民の安全・安心につながる効果」などが期待されます。

町田市の里山環境の保全・活用にあたって、当該制度の活用も視野に入れていくことは重要といえます。



出典：林野庁 Web サイト

## ■森林環境税及び森林環境譲与税

パリ協定の枠組みの下における日本の温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止を図るため、森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保する観点から創設された制度です。森林環境税は、令和6年度から国内に住所を有する個人に対して課税される国税であり、市区町村において、個人住民税均等割と併せて一人年額千円が課税されます。その税収は、全額が森林環境譲与税として都道府県・市区町村へ譲与されます。

町田市の里山環境を持続可能なものとしていくためには、荒廃の原因となっている、竹や巨木化した樹木を間伐し、山林の再生を図っていくことが重要といえます。

山林の整備にあたっては、森林環境譲与税や森林経営管理制度などの仕組みを利用して整備を図った事例としては、高知県の町の取組等が参考になります。

**高知県 いの町（地域住民との連携による里山整備の推進）**

◆ 本町は高知県のほぼ中央部に位置し、平成15年10月に1町2村が合併し誕生した。区域面積47,097ヘクタールは県内24市町村中4番目、90%を森林が占め、1,800メートルを超える高標高地から平野部の里山地域まで多様な森林が分布している。

◆ 里山地域においては森林所有者の森林整備に対する関心の低下が著しく、適正な管理がなされず放棄された竹林の拡大や、その拡大に伴って里山林の多くが荒廃している状態にある。

◆ このため本町では、新たに課与される森林環境税と併せて、町独自に里山環境を支える新規事業を創設し、町が放棄された竹林等の整備について、森林所有者や地域に働きかけを行い、地域の合意形成を図りつつ、里山環境の再生に向けた補助事業者と森林所有者・地域とのマッチングを図っていく。

---

**【事業名・概要】**

事業名：いの町里山再生支援事業

【事業費（内譲与税額）】  
8,500(8,500)千円

【実施時期】：令和元年7月～令和2年3月

【補助事業者】：森林組合等の森林経営団体

【事業内容】

①竹林整備（2.4ha）  
放棄竹林の整備、間伐、下刈り・除伐  
※ 下刈り及び除伐の作業経費は、原則5年分までそれぞれ年1回とする。

②里山林整備（0.5ha）  
枯死木の除去伐り  
※ 伐倒等により、森林として機能する見込みがなくなった箇所については、補植を行うことができる。

③歩道整備（400m）  
①、②に付随する歩道の作成又は修復。

**【事業の仕組み】**

◆ 里山地域は地価暴落地が多く存在し、森林の所有者や境界の認識に多くの労力を要する。そのため地域住民との連携による森林整備の取組に取り組んでいる。

◆ 竹種整備では伐倒後、原則5年間で下刈り等を行い、放棄竹林からの林種転換（再生）を図る。

出典：「森林環境譲与税の取組事例集（令和2年1月）」

(仮称) 町田市里山環境活用保全計画

令和4年●月

町田市経済観光部農業振興課

〒194-8520

東京都町田市森野 2-2-22

TEL:042-724-2164 / FAX:050-3101-9913